



Contents

委員長挨拶	・・・ P. 2
平成 23 年度定期総会開催	・・・ P. 3
第 16 回所沢市国際交流フォーラム開催	・・・ P. 4
東日本大震災 被災地を訪問して	・・・ P. 5
第 21 回こどもルネサンスあかさたな合唱祭	・・・ P. 6
ディケイター姉妹都市委員会から義援金	・・・ P. 8
リレーエッセイ	・・・ P. 9
新入会員の紹介	・・・ P. 10
じえつと・らく	・・・ P. 10

編集・発行: 所沢市国際友好委員会

広報担当: 山田弘代、市川雅巳、二見孝、加藤紀子

事務局: 所沢市役所 総合政策部 企画総務課内

〒359-8501 所沢市並木1-1-1

Tel: 04-2998-9046

Fax: 04-2994-0706

E-mail: info@tokorozawa-kyi.com

委員長挨拶 東日本大震災と国際交流

友好委員会委員長 武藤 正

東日本大震災が引き起こした地震、津波、放射能の三重の被害は、一時は日本という国の存続を考えさせるほどのものになりました。放出された放射性物質は世界中を駆け巡り、深刻な放射能汚染を引き起こしています。

地震直後、外国人労働者や留学生が多数帰国、外国人旅行者も激減したというニュースを聞きました。外国人アーティストの公演も多数がキャンセルになっているそうです。

当委員会の関係でも、3月開催の国際交流フォーラムに参加予定であった韓国安養市の皆さんが欠席となりました。また、4月の航空発祥100周年記念式典と市民文化フェアに参加予定であった安養市の方々も来日取りやめとなりました。（結果的には記念式典も文化フェアも結局中止となったわけですが。）

こういう状況の中で、姉妹都市交流・国際友好が続けられるのかと不安に思っていた矢先に、朴・韓日親善協会前会長が安養市民からの義援金を届けてくれました。また、アメリカ・ディケーター市の姉妹都市委員会も義援金を送金してくれました。姉妹都市の皆さんの友情に出会い、先走った心配を恥じ、胸が熱くなる思いでした。今後、放射能汚染の問題は様々な課題を私達の活動にもたらすのかも知れませんが、少なくとも姉妹都市の友人達は私達を励ましてくれています。当委員会の皆さんと力を合わせて、より一層の交流を目指していきたいと気持ちを新たにしました。今後ともよろしくお願い致します。

<役員改選について>

5月18日開催の当委員会総会において任期満了に伴う役員の改選が行われました。この改選で永らく役員をお勤めいただいた堀嘉子副委員長、川崎英生副委員長、海老澤うめ子幹事、道又正秀監事が退任されました。皆様の永年のご功績に対して心よりお礼申し上げます。

また、新役員として二見孝様、桑原哲也様、市川雅巳様、石井巖一様（青年会議所）が選任されました。今後ともよろしくお願い致します。

平成 23 年度定期総会開催

友好委員会前副会長 川崎 英生

去る5月18日（水）、セレス所沢を会場に、当委員会の定期総会が、多くの会員の参加のもと、開催されました。以下、その内容を報告させていただきます。

当日、議案第1号から第5号までが総会の議事に向けられ、武藤委員長を議長に、まず平成22年度の事業報告並びに収入支出決算報告書が役員により報告され、出席者による審議の結果、承認されました。

引き続き、第3号議案である、当委員会役員改選について協議され、承認されました。以下、新役員について、発表させていただきます。

委員長	武藤 正
副委員長	山田弘代
	平岩敏和
会計幹事	加藤且行
	桑原哲也（新）
幹事	田中新二郎
	伊藤嘉明
	鶴田良孝
	染谷俊樹
	二見 孝（新）
	市川雅巳（新）
	（社）所沢青年会議所 石井厳一（新）
監事	小山政士
	木下公夫



続いて、新役員により、第4号並びに第5号議案である、平成23年度の当委員会の事業計画案並びに収入支出予算案が出席者による審議に向けられ、無事承認されました。以下、事業計画の概略を発表させていただきます。

- 1 会議
定期総会および役員会の開催
- 2 広報事業
会報「いんた」の発行
ホームページの維持管理・更新
国際交流フォーラムでの広報活動



- 3 国際友好活動促進事業
 - ディケイター市への市民訪問団の派遣
 - 常州市への派遣
 - 常州市からの受け入れ
 - 安養市への派遣
 - 安養市からの受け入れ
- 4 その他
 - 第17回所沢市国際交流フォーラムへの参加

総会終了後、出席者は懇親会場へ移動し、当麻よし子所沢市長、中村太所沢市議会議長をはじめとする来賓の方々をお迎えし、和やかな時を過ごしました。

第16回所沢市国際交流フォーラム開催

友好委員会幹事 田中新二郎

平成23年3月13日「つながる心が世界を結ぶ」をメインテーマとし第16回所沢市国際交流フォーラムが開催された。

当委員会からは、染谷俊樹、小山政士、田中新二郎の会員3名が実行委員として参加し7回の実行委員会を経て実施された。しかし、3月11日に発生した東日本大震災の影響で内容を大幅に変更せざるを得なくなり、予定通りの開催とはならなかった。

「第1部 明日にはばたく若者たち」を市役所1階市民ホールより604会議室に移し、埼玉大学留学生とのディスカッションのみを実施した。留学生5名の内訳は中国(2名)、韓国、インド、ベトナム(各1名)であった。

彼らの日本留学の理由としては、日本人のまじめな国民性、電気製品、工業製品の技術力、子どもの高い自立心、アニメによる日本の情報など等を通じて興味を持ったから、とのこと。

彼らが訪日後に見聞した日本人の印象「グループを作りたいがる」「対外国人アレルギー」「引っ込み思案」を聞き、もっと外国人との交流を活



発にしなければと考えさせられた。

次に昨夏、米国ディケイター市への短期留学に派遣された高校生の感想を聞いた。「彼我の文化の差異を体験できた」と実に嬉しそうに話している顔は輝いていた。

以上で15時に終了した。震災の翌々日ということで一般来場者が少なかったのは残念であったが内容は非常に濃いものであった。



(寄稿)

東日本大震災 被災地を訪問して



友好委員会幹事 市川 雅巳

4月と5月の二回にわたり、東日本大震災の被災地であります石巻市の湊小学校避難所を訪問して来ました。多少、片づいてきてはいるものの、しかしながら、どうやって以前の状況に戻すことができるのか、全く予想がつかないほど、ひどい状況であります。

一度目は我が子と共に、所沢産の野菜を車に積み込み、津波被害宅の泥出しのお手伝いもさせて頂くこともできました。長男は現在、高校3年生。本来なら受験勉強に追われる時期であり、最初は興味本意で被災地に行くことに躊躇いもありました。しかし、彼が何故、受験勉強をしているかの意義。そして社会人になってからも、この東日本大震災の影響は、日本人として必ず背負っていかなければならないことを被災地で直接、共に感じる機会を得ることができました。

二度目は仲間たちとボランティアツアーを組み、教室分の扇風機20台を積み込んで、未だ250余名もが避難している方々へ朝食の豚汁と餅つきを提供させて頂きました。予想をしていた以上に喜んで頂いたものの、初めてボランティアを体験された参加者の中からは「もう少し感謝されても良かったのでは・・・」などという意見もありました。しかし考えてみても、震災から3ヶ月も経過しているにもかかわらず、全くの他人と教室で共に寝起きをしている

ことはとても普通な事ではないのです。避難されている方たちは、ただ、じつと耐えて我慢するしかないのです。帰りに小学校の避難所のトイレを拝借した時にドアに次の言葉が貼ってありました。

「わたしたちは今、悩みながら次の一步を踏み出そうとしています。ここ被災地では古い世界のすべてが変わり果てました。これまで世界中の善意が私たちを支えてくれました。これからは私たちがもう一度、私たちの足で歩き始める勇気を出すときです。その勇気は私たち自身が、この記憶を風化させないことからしか生まれません。もう一度、大きく息を吸い、悲しみを体中の毛細血管にまでゆきわたらせれば、きっと海の底に眠る魂が、私たちに光を与えてくれます。今、希望のスクラムが組まれ始めています。」

今まで見たことのない悲惨な状況、今まで嗅いだことのない悪臭……。私は現地に訪問するだけでもボランティアだと思っておりますし、被災された方々も是非、見に来てくださいますと言っております。時間が許される限り訪問を続けようと思っております。

最後に、本来なら国際友好関係の内容を掲載しなければならないところ、特別に震災関係のご報告をさせて頂き感謝申し上げ、私の報告とさせて頂きます



(寄稿)

第21回 所沢こどもルネサンス あかさたな合唱祭 モスクワ少年合唱団コンサート&交流会



友好委員会会員 持丸邦子

所沢市内の公民館を拠点にして合唱を楽しんでいる子どもたちが、年に1度、都内や県内に住むさまざまな文化背景を持つ子どもたちを招いて、開いてきた「あかさたな合唱祭」に、2010年11月13日(土)、モスクワ少年合唱団を迎えました。公募で集まった子どもたちを交えて、それまで2回のワークショップ

プでロシア語の歌を練習した子どもたちが、当日は、一緒に「カチューシャ」を歌いました。その後、交流会では、意外とシャイなモスクワの男の子たちと活発な所沢の子どもたちが友好を温める場面があちこちで見られました。

所沢こどもルネサンスは、子どもたちの芸術文化活動を支援するボランティアの実行委員会が、合唱祭のほかにも、人形劇教室、クリエイティブ・ドラマのワークショップ、子ども文学のひろば、まんが・イラストコンクール、伝承あそび、おはなしのひろば、トコトタウンという様々な活動を展開しています。

これまでも、子ども文学のひろばの俳句の作品をディケーターで開かれた俳句のフェスティバルに出品したり、ディケーターやスリランカの子どもたちの絵をまんが・イラストの展示会に出品してもらったり、おはなしのひろばで、世界のお話を紙芝居にして見せたり、発展途上国や紛争国で活動しているNGOの方たちにプログラムをお願いしたり、また、テレビでおなじみのアフリカ出身のタレントさんとの交流の会をしたり、と国際交流の側面を多く持ってきました。その中でも合唱祭は、もっとも身近な在日コリアの子どもたちとの歌を通しての交流を第1回から始めていましたし、ロシア大使館付属学校の子どもたち、すぐ近くの東久留米クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン（CAJ）の子どもたちも常連です。昨年はずいぶん、20周年記念の特別な曲を、CAJの音楽の先生が作曲してくださいました。



今回のように、海外の著名な合唱団を招いてのコンサートも何回か開き、それを通じて、所沢のミューズのすばらしさが世界に伝えられています。私自身はディケーター・パークシンガーズを再度、所沢に招聘して、所沢の子どもたちと歌での交流、ということを見て、ディケーターを訪ねたこともありました。

「音楽には国境はない」と、よく言われます。毎年の合唱祭で出会う子どもたちの心には国境はなくなっているだろう、と期待しますが、今年は外国人の帰国が相次ぎ、これまで通りの合唱祭ができるかどうか、心配な状況です。



ディケイター姉妹都市委員会からの義援金を 所沢市を通じて日本赤十字社へ

この度の東日本大震災について、4月16日にディケイター市において被災地への義援金集めのためのチャリティーイベントがディケイター姉妹都市委員会（キャシー ソレンセン会長）により、開催されました。そのチャリティーイベント



他で集まった義援金497,500円を、所沢市を通じて日本赤十字社へ届けてほしいとの依頼が当委員会にあり、6月9日に武藤正委員長より当麻よし子市長に手渡されました。

ディケイター市での上記イベントの様子は、当委員会ホームページ（<http://www.tokorozawa-kyi.com/>）に動画を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

日本を支援しよう!

benlynnvideos 登録リストに追加

チャリティーイベントの様子→



ディケイター市姉妹都市
委員会のオストランダー
真紀さん→



リレーエッセイ

常州市少年宮民族楽隊の子供達

【平成8年（1996）年8月22日～28日】

友好委員会会員 納富 昌子



友好委員会のメンバーとして、常州（'95、'96）安養（'99）を訪問してきましたが、今回は少年宮の子供達に焦点を絞って・・・

'95年、初の文化交流（和布のお細工物）で訪問した際、少年宮の子供達の生演奏に心から感動。翌年ミューズでのコンサートが開催されることとなり、7～17才（平均年齢13才!）の子供達17名が10軒のホストファミリー宅に分宿。（もちろん前年の訪問団員も世話役に）

楽隊員は常州市（日本の県に相当する広域）全体からの選りすぐりで、しかも民族楽器（二胡、揚琴、柳琴、笙（スン）、埙（スウン）、排簫（パイショウ）、巴烏（パーウー）、葫蘆絲（フルース）等）を巧みに操り、『さすが、全国大会で優勝するだけあるわ!』と感嘆。歓迎会席上、子供達に『将来は音楽家?』と聞くと、口々に『医者』、『英語教師』、『化学研究者』・・・『楽器演奏はあくまで教養の一つ』との答えに驚愕!『大人』を感じました。

或る日は、私達手持ちの浴衣を子供達が交代で着ては思い思いにポーズを取り記念撮影。女の子達は大喜びで（一人一人に徹夜で作った）髪飾りを嬉しそうにジーンと見つめる姿は『初々しく』とても印象的でした。

帰国前日は、一番の楽しみディズニーランドへ。子供たちは学校も居住地も年齢も異なる“一人っ子”ばかりで、至る所で個々のカメラを渡され、一人一人を撮るのが大変だった記憶がありますが、そんな時に見せる表情は『子供らしく、無邪気で、可愛らしかった』です。

反面、食文化の違いも実感。滞在先宅へお手伝いに伺う時、手作りおやつ（クッキーやケーキ）を持参するのですが、甘いらしく、中国のすっぱい干し梅や板状の山楂子ばかり口にしていました。

ディズニーランドの帰路立ち寄ったもんじゃ焼きのお店でも、殆ど全員が口にせず、ホストファミリーのご苦労（何を作ったら食べてくれるのかしら?）を思ったことでした。

まだあどけなさの残る子供達、ホームシックになっていたのかも知れませんが、出来る範囲で奔走、本当に楽しい至福の時でした。7才だった劉 弦 君元気になっていますか?



新入会員紹介

今年度より下記の4名の方が友好委員会に加わりました。

- ・石井 恵美子 様 ・植竹 成年 様 ・勝呂 一夫 様
- ・(社) 所沢青年会議所 石井 巖一 様 どうぞよろしく申し上げます。

じえっと・らく

「ちょっとばかりほっとしたこと」

多分皆さんも同じ思いをしたのだと思いますが、あの地震の後暫くは、心身共にふぬけのようになってしまい、身の回りがこれまで経験したことのないような不安に満ちたざわめきに取り込まれてしまっているのを感じ、ひたすらうろたえ続けている日々を過ごしました。普段なら車で一時間でたどり着ける場所へ、延々と続くガソリンを求める車の列に巻き込まれ、またあの忌まわしい計画停電による信号機のストップで、半日かかってもたどり着けないような日々が二週間も続きました。震災直後に発せられた外国からの連帯の表明に、突然流れ出した涙が止まらなくなることも再三でした。人並みに赤十字に義捐金を送ったりしましたが、日々眼にする被災者の映像を自分と引き比べて、情けなさは深まるばかりです。

思い立って献血に行きました。駅近くの献血ルームは、思いの外、人で溢れていました。大半は、僕のような、中年か、初老と思われる人でした。順番待ちをしているときには、かなり高齢と見受けられる婦人が、私でも献血できるのかしらと係員に相談している光景も眼にしました。

でも、僕にとってなんだか嬉しかったのは、若い人の姿が意外なほど多かったことです。意外な、などと言ってしまうと、若者に失礼なのでしょう。以降、テレビでボランティアに汗を流す若い人の姿を本当に沢山眼にするのですから。後に続く青年たちを頼もしく思えたこと、これからも続くあの地震がもたらした重い課題のなかで、ほんのすこし、気持ちを明るくさせてくれた出来事でした。(英生)

事務局より

去る6月8日の当委員会役員会において、現在年2回発行の「いんた」について、本年8月より「いんた」月間号を出すことに決まりました。つきましては、発行に関し、ご意見・ご要望・掲載原稿を、ぜひお寄せいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

詳細等は事務局(市役所企画総務課)までご連絡ください。